

●● アルコール ●●

重点項目6 アルコール対策

(1) スローガン

- ◇アルコールの健康への影響に注目しよう
- ◇適正な飲酒を心がけよう
- ◇お酒の無理強いはやめよう

(2) 現 状

- 「多量に飲酒する人」(※1)の割合は、ベースライン値と比べて男性はやや減少、女性は増加傾向にあります。男性は、全国平均と比べて約2倍で、依然高い傾向にあります。また、1日に飲む量については、男女とも「2合以上」と回答した人が約10ポイント増加し、男性58.2%、女性26.7%となっています。
- 「節度ある適度な飲酒」(※2)を知っている人の割合については、39.1%でほとんど変化がありません。性別でみると、男性では、「適量」について「2合以下」と回答した人が最も多く4割を超えています。

(3) 目 標 値

項 目	ベースライン値	中間実績値	目 標 (H22)
多量に飲酒する人の減少 (男性)	12.5% ¹⁾	10.5% ²⁾	7%以下
(女性)	0.5% ¹⁾	0.9% ²⁾	0.3%以下
未成年者の飲酒の減少	—	—	0%
「節度ある適度な飲酒」を知っている人の増加(成人)	38.4% ¹⁾	39.1% ²⁾	100%

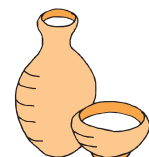
出典：1) 平成12年県民健康栄養調査
2) 平成17年県民健康調査

(※1) 多量飲酒者：週4日以上かつ1日3合以上（1日に純アルコールで60g以上）飲酒する人と定義しています。
(※2) 節度ある適度な飲酒：「健康日本21」では、適量として、日本酒に換算して1日1合程度（1日に純アルコールで20g程度）と定義しています。

(4) 取組の方向性

- 多量飲酒の影響などについて、働き盛り世代に対しては、健診実施後の情報提供及び保健指導の実施や職域保健と連携し、適正飲酒やアルコールと健康についての正しい知識の普及啓発を行います。
- 市町村においては、がん検診や健康教育、相談などのあらゆる機会を活用したアルコールと健康についての正しい知識の普及啓発を推進します。
- 未成年者の飲酒防止について、地域と学校が連携して未成年者及び保護者への健康教育の実施や普及啓発を行います。
- 多量飲酒の健康影響と合わせて、社会的にも影響が大きい飲酒運転やアルコールハラスメント(※3)などについて、関係機関による情報提供を強化する必要があります。

(※3) アルコールハラスメント（通称アルハラ）：アルコール飲料に絡む嫌がらせ全般を指す言葉で、アルコール類の多量摂取の強要など対人関係の問題や、酩酊状態に陥った者が行う各種迷惑行為などの社会的なトラブル（迷惑行為）を含む。



項 目	推 進 内 容	推 進 主 体							
		県	市町村	教育機関	医療保険者	職域	医療機関等	関係団体等	民間事業者
アルコールに関する知識の普及	アルコールや適正飲酒に関する知識の普及 ・ 広報誌，インターネット等での情報提供 ・ 健診や健康教室等でアルコールの健康影響に関する資料の配布及び説明等の実施	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	
	健診後の情報提供や保健指導等における適正飲酒に関する正しい知識の普及及び指導	○	◎		◎	○	◎		
未成年者の飲酒防止対策	未成年者に対するアルコール販売及び提供の禁止の徹底							◎	◎
	小中高生及び保護者に対するアルコール教育の充実及び指導者・教育者の研修	◎	◎	◎					
多量飲酒者対策	多量飲酒の健康影響に関する知識の普及	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	
	(再掲) 健診後の情報提供や保健指導等における適正飲酒に関する正しい知識の普及及び指導		◎		◎	○	◎		
	保健所，市町村，職場等の多様な相談窓口の整備	◎	◎			◎			
	相談，治療，回復支援等の窓口に関する情報提供	◎	◎		◎	◎	◎	◎	
	医療関係者に対するアルコール依存症及びアルコール関連健康影響に関する研修会の開催						○	◎	
	保健・福祉等関係機関，職域，自助グループ，地域等の連携強化及びアルコール関連問題の早期発見と適切な介入の実施	◎	◎			○		○	
	一般相談時に飲酒状況の自己診断法（CAGE※）の導入	◎	◎					◎	
アルコール依存症の早期発見・早期介入	アルコール依存症についての正しい知識の普及	◎	◎		◎		◎	◎	
	専門相談機関の体制強化及び相談窓口についての情報提供	◎	◎		◎		○	○	
	自助グループとの連携及び支援 ・ 依存症治療の専門病院，断酒会等の紹介	◎	◎				○	○	
	行政機関，医療機関，自助グループ間の連携強化 ・ ケースのケア会議などを通じた地域のネットワーク構築	◎	◎				○	○	

* 推進主体(21 ページ参照) :◎実施主体, ○連携, 協力, 支援

(※) CAGE: アルコール依存症の早期発見のためのテスト。アルコール関連問題は，深刻な場合ほど，問題を否定しようとする患者心理が強まります。飲酒問題を否定したり，うそをつくこともあります。飲酒量の自己申告は当てにならないことが多いと言われています。そのため，アルコール問題の同定には，本人だけではなく家族をはじめとする周囲からの情報と質問紙法や血液検査などの活用が重要です。質問紙法としての CAGE では 2 項目以上陽性で，アルコール依存症の可能性が高いとされています。

表 1 CAGE

1)	飲酒量を減らさなければいけないと感じたことがありますか
2)	他人があなたの飲酒を非難するので気にさわったことがありますか
3)	自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことがありますか
4)	神経を落ち着かせたり，二日酔いを治すために「迎え酒」をしたことがありますか